

学校法人 コミュニケーションアート 大阪キャリアナリー製菓調理専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和2年6月18日実施】

令和元年度（2019年度）自己点検自己評価（令和元年4月1日～令和2年3月31日）による

学校関係者評価委員氏名 【 】

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教 育 理 念 ・ 目 的 ・ 育 成 人 材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	本校と本校の属する学校法人は、学校運営にあたり、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、それを遂行するために、「3つの教育理念」と「4つの信頼」を基に、事業計画を作成しているからこそ、健全なものとなっている。 また、理念・経営者の言葉等々を文書化し、組織内への浸透、新入職者へのわかり易い提示により、活性化に繋がっている	「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。	3・2・1	「実学教育」「人間教育」「国際教育」とともに教育理念と目的に即した内容であり優れた教育システムであると判断致します。 創立以来グループが掲げておられる「3つの教育理念」と「4つの信頼」に基づき確実に運営されている。特に「実学教育」は現代のニーズ、社会の変化に応じて、的確に教育されており、高く評価したい。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか		「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。			
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか		「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う			
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか		製菓系全校の教務部から構成される「食文化教育部会」「同分科会」を設置し、育成人材像から教育システム・内容（カリキュラム）等々の見直し、開発など、スケールメリットを活かして行い、共通化を図っている。			
2 学 校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	2	滋慶学園グループが計画する5ヶ年計画をうけ、各校は具体的に各年度事業計画書を作成し、その中で5年後の将来像等構想を描いている。	学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。	3・2・1	短期中期の作成計画に向けて着実にひとつひとつ丁寧に確認を実施しつつ遂行されていると判断し、評価に値すると考えます。 滋慶学園グループとして手堅い学校運営に信頼性がある。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか		諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。 事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年12月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための会議・研修も行っている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか		運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか		学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。			
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか					
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか					

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	2	授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、F D研修や、授業アンケートを実施している。 授業アンケートでは、講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断を行い改善を図っている。	大阪キャリアナリーでは、「5つ星教育システム」による教育を行っている。 ①おもてなしの心、 ②技術力、 ③創造力、 ④コーディネート力、 ⑤マネジメント力 上記、5つの力をバランス良く身につけ、就職後の即戦力を目指す独自の教育プログラムである。	③・2・1	人材育成は誠に難しいが、貴校の「産学連携教育システム」の完成度は、かなり高い。 また、業界トップクラスを揃えた講師陣は魅力的である。あとは、看板倒れにならぬよう努め、学生たちがしっかり技術とマインドを継承できる環境を醸成していただきたい。 プラスαで、社会に出た時のマナー、名刺の渡し方や保険について教えてもらえるとができればいい。 5つ星教育システムのいづれも学生に対し丁寧に指導をされており、社会人として就職後もそれは学生の人生の糧になりうるスキルであると評価致します。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけてい					
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか					
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					
4 学習成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	2	教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、就職希望者全員就職・退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。 開校以来、就職希望者全員の就職を達成しているが、就職後の離職率低下も新たな課題として取り組んでいる。 退学率では、開校以来、様々な取り組みの努力を重ねた結果、全体退学率は低下しており、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの改善改革、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0％達成に向け、努力を惜しむことはない。	退学者0名に向けては、夏休み後に個別面談を実施。また、後期スタートと同時に再度面談を行い、進路変更の希望にも細かく対応し、退学者0名達成を目指す。 教務・広報・就職スタッフ間の情報共有を進めることで、就職後のフォロー体制を強化し、離職率低下を目指す。また、内定獲得後の学生への指導（社会人基礎力・一般常識・学力等）にも注力し、知識・技術に留まらない人間力の向上を目指す。教育成果の1つである就職は、年々専門就職率が向上しているが、100％を達成すべく努力を続けている。また、多くの学生が夢を叶えて就職出来るよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。 学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。 退学率では、個別カウンセリングの体制をより強化し、1人でも退学者を出さない学校になるべく注力している。今後は、最終目標である0％に向け、さらなる努力を重ねたい。	3・②・1	退学者「0」に向けて複数年にわたり、課題の抽出とその解決に向けた具体的な取組をされていることに対し評価致します。今後更なる学生本人と保護者の方との三位一体型のコミュニケーションを図り目標達成を期待致します。 教育成果はイコール社会的信用として結実する。さらに高い目標を設定して、学校の存在感をアピールして欲しい。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか					
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか					

5 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	2	本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。 学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC（スチューデント・サービス・センター）という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。 また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。 今後の課題としては学生一人ひとりをしっかり見ていく体制を強化することである。担任のみならず事務局スタッフ、教務事務、キャリアセンター、警備員さんなども含め全員でサポートするような体制をつくりあげることが課題と考える。また、衛生分野の学校として、万全の新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。	総括にあげたものの中で改善すべきところは、就職の部分でもっと就職活動を積極的にしていけるよう、卒業生のお話をもっと聞く環境を増やすことが必要と感じている。業界人としてまたは卒業生としての両面で話ができる先輩からのアドバイスを聞き、もっと積極的な就職活動につながると考える。 また学生一人ひとりをしっかり見ていく体制を強化する為「個別カウンセリング活動」なども見直ししながら、実行していく必要がある。 ①「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンや携帯でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をし、迅速な対応ができるように支援している。 ②事務局会計課に学費の分納等に関する相談窓口を設置し、ファイナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また学内にも学費相担当者を置き、学生達の相談に炊事対応できる体制を整えている。日本学生支援機構の奨学金を利用する学生が多いため、教務部に奨学金窓口を設置している。今後実施されるであろう学費減免制度についても、柔軟に対応できる体制を構築する。 ③即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。 ④新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業期間中であつたとしても、オンライン授業の構築ならびに、学校再開に向けての準備を行った。また感染拡大マニュアルを作成し、学生だけでなく、講師・教職員に徹底することにより、安心して学校生活を送ることができるよう努めている。	3・②・1	学生インフォメーションだけではなく、保護者にもメールなどを流してもらいたい。 衛生について考え直すきっかけが出来たことはとても良いことだと思います。新型コロナだけでなく、食の世界ではノロウイルスも含めて考えるのは良いと思います。 まだまだ、多くの課題を残す、項目ではありますが、年々、改善がなされていることを評価致します。 貴校の授業料は、一般の私立四大に比して高い。もちろん、技術を習得させるためのコスト料であることは理解できる。 今後、コロナ禍で授業料を工面できぬがゆえに進学を断念していく若者も少なくなかろう。又、海外の留学生も含め、貴校独自の奨学金制度を整備し優秀な人材の確保に努めていただきたい。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか					
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか					
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか					
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか					
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか					
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					

6 教 育 環 境	6-31 施設・設備は、教育上の 必要性に十分対応できる よう整備されているか	2	本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境（施設・設備、機材等）の整備は重要であるが、完備されていると考える。	定期的な、点検体制を構築し、滞りなく授業を進める環境を常行うことが必要である。	3・②・1	インターンシップについて子供は行きたいところに行けたが、行けない子供もいたので、行けるように改善してほしい。 毎年、環境変化に対応した、教育環境を整備 s れていると考えます。想定外のリスクに対するマネジメントも優れていると判断致します マンモス校とは違い、一対一のマンツーマン形式のきめ細かい家庭的なよい雰囲気を使用できる。
	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか			また、業界に動向に合わせて、必要な設備を導入しなければならないが、すぐに導入できない場合もある。その際はそういった環境で教育を行うことができる外部施設なども業界との連携の上で実施していく必要がある。業界のニーズに応える「5つ星人材」の育成を目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、業界標準の最新・最良のものを整備している。		
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか			また、業界団体が実施しているプロのコンテスト使用機種を揃え、更なるレベルアップを図っている。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか			教育環境整備には、毎年、事業計画で購入・修繕・入れ替えを計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っている。		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	2	本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（AO 入学等も）を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページ・SNSを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、公平性を保つために「入学選考判定会議」にて、可否を決定する。なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。	「職業人教育を通して社会に貢献する」人材育成のための教育方法を高校生・先生・保護者に伝えていかなければならない。 産学協同教育を通し本校の強みである、専門就職実績と卒業生の活躍は教育成果として打ち出しを強化しており、充分にかつ正確に伝えられていると考えている。 資料請求媒体誌、学校案内書、ホームページ、説明会、SNSでの配信等、一貫性のある学生募集活動を展開していることで、教育成果はより明確になっていると考える。 これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理をさらに徹底をさせる。 学生募集については、早期の募集開始時期にも対応し、募集内容等々ルールを遵守し、また過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校特色でもあり他校が実施できない現場のプロが指導」の点を強化している。 本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。	3・②・1	産学協同教育など積極的な取組を継続的に実施されています。アフターコロナの新たなデジタルによるオープンキャンパスなどの取組に期待を致します。 入学選考において、透明性と公正感を正面に捉えることは、とりもおさずコンプライアンスに対する貴校の姿勢となる。社会の評価を不動にするためにもご尽力願いたい。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか					
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか					
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか			本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規定の認証を受けている。		

8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	2	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算（収支計画）は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。	5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。	3・②・1	学費に関して、1年間でまとめてではなく、何回かに分けて支払いができるようにしてほしい。 期初に立てた計画に則り、環境変化にも柔軟に対応しつつ運営をされていると評価致します 5ヶ年の収支予算計画に基づき、会計の原理原則にのっとり、堅実に実行されている。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか					
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか					
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか					

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	2	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営（学科運営）が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 （Ａ）組織体制 ①財務情報公開体制（学校法人） ②個人情報管理体制（滋慶学園グループ） ③ 告倫理委員会（滋慶学園グループ） ④ 進路変更委員会（滋慶学園グループ） ⑤ 学校関係者評価委員会（第三者） ⑥教育過程編成委員会（第三者） （Ｂ）システム（管理システム） ①個人情報管理システム（滋慶学園グループ） ②建物安全管理システム（滋慶学園グループ） ③防災管理士システム（滋慶学園グループ） ④部品購入棚卸システム（滋慶学園グループ） ⑤コンピュータ管理システム（COM グループ） 滋慶学園グループ、滋慶学園COM グループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校（学科）運営ができるようにしている。	法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。 教職員が学園の方針を理解し実行に努めるとともに④⑤に関しては、外部の委員の方々からのご意見を学校運営、教育過程に反映することに努める。 すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。	3・②・1	法令順守に関しては、しっかりとしえ組織をつくられて高い倫理観に基づいて運営をされていると判断いたします。 貴校のみならず、グループ全体でのお取組みに安定感がある。とはいえ、昨今、企業や職域でのパワハラ、セクハラなどに対する社会の眼は厳しく、対応を誤ると致命的なイメージダウンにつながる。これまでのお取組みを積極的に推進していただき、事あるごとに実績をアピールすべきだと思う。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか					
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか					
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極に行っているか					
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	本校には、「３つの教育理念」（「実学教育」「人間教育」「国際教育」）を実践し、「４つの信頼」（①学生と保護者からの信頼、②高等学校からの信頼、③業界からの信頼、④地域からの信頼）を得られるように学校運営をしている。 この「４つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。 また、社会福祉に関するバザーなどへ出店することで、地域貢献に積極的に参加している。	滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度２８度設定、クールビズ、階段利用（２アップ３ダウン）や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「４つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。 学校関係者評価委員会を設置しているが、その委員の一人である近隣代表の委員の方とも更に連携を図り、地域の要望を学校行事とリンクして行うことが必要と考える。 本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。 一例として、社会福祉法人日本ライトハウスのバザー出店などは長年行っている。 また、定期的な販売イベントを校内で行うことで、地域社会と交流を図り、ひいては地域貢献に繋がる活動となっている。 そういった活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「４つの信頼」獲得に繋がり、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。 新しく菜園を設置したことにより、新しい地域交流の機会を設けたい。	3・②・1	国際交流はもちろん、特に地域密着型の近隣住民の方と緊密に連携をとったイベントや取組は評価に値すると思います。 貴校グループの推進は、「地球温暖化対策」条例に基づき「4つの信頼」による社会貢献の指針が明確に記されている。さらなる地域社会との融合事業に注目したい。
	10-36-2 国際交流に取組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					